報 告

中部支部 オンラインセミナーに参加して

本田 優介

金沢福祉用具情報プラザ

1. はじめに

2026 年 5 月 30 日、日本リハビリテーション工学協会中部支部主催によるオンラインセミナー「スポーツ・アクティビティ×リハビリテーション工学」が開催された。本セミナーは、2026 年に愛知県名古屋市で開催される第 20 回アジア競技大会および第 5 回アジアパラ競技大会を契機として企画されたものであり、パラスポーツを支える支援技術や機器開発、スポーツ活動がもたらす価値について学ぶ機会となった。本稿では、セミナーの概要と参加を通して得られた学びについて報告する。

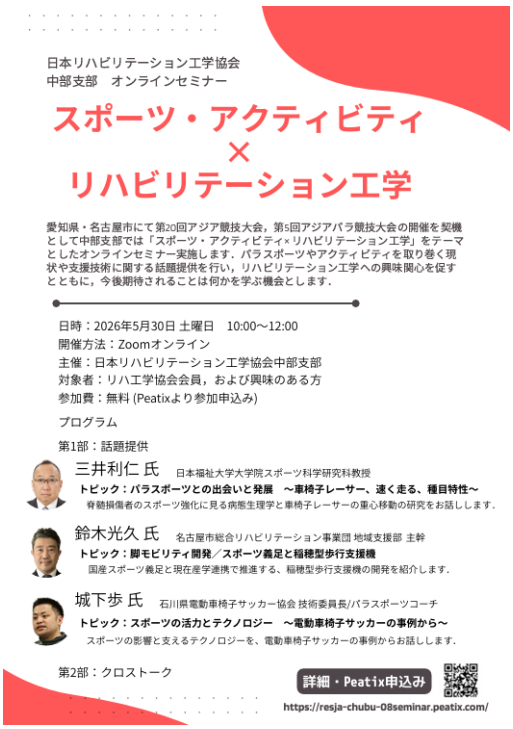

図 1 中部支部オンラインセミナー ポスター

2. セミナー概要

第 1 部では、三井利仁氏（日本福祉大学大学院スポーツ科学研究科教授）、鈴木光久氏（名古屋市総合リハビリテーション事業団地域支援部主幹）、城下歩氏（石川県電動車椅子サッカー協会技術委員長／パラスポーツコーチ）の 3 名による話題提供が行われた。

三井氏からは、パラ陸上競技における競技用車いす利用者の重心移動や床反力を分析し、競技特性に応じたフォームやシーティングを検討する研究について紹介があった。鈴木氏からは、国産スポーツ義足の開発経緯と、スポーツ分野で培われた技術を応用した歩行支援機器の開発について報告された。城下氏からは、電動車いすサッカーを例に、スポーツを支えるテクノロジーや、競技参加がもたらす社会的・心理的効果について紹介があった。

第 2 部のクロストークでは、研究者、開発者、支援者、当事者それぞれの立場から、スポーツ活動への参加を促進するための方策や、リハビリテーション工学に期待される役割について活発な意見交換が行われた。

図 2 オンラインセミナーの様子

金沢福祉用具情報プラザ
〒 920-0853 石川県金沢市本町 1-10-1
ルキーナ金沢 1・2 階

3. 印象に残った内容

今回のセミナーを通じて特に印象に残ったのは、スポーツ現場における技術開発が競技力向上だけでなく、生活支援技術へ発展している点である。スポーツ義足や競技用車いすの開発では、高い性能や安全性が求められるが、その過程で得られた知見や技術が歩行支援機器や生活支援機器へ応用されていることが紹介された。スポーツと日常生活は一見異なる領域のように感じられるが、「より良い動作を実現する」という共通の目的を持っており、両者が相互に発展していることを感じた。

また、電動車いすサッカーの実践報告では、スポーツが身体機能の維持向上だけでなく、仲間との交流や自己実現、社会参加の促進につながることが示され、支援技術が人と社会をつなぐ役割を果たしていることを改めて認識した。

4. 作業療法士として感じたこと

作業療法士の視点から特に興味深かったのは、テクノロジーの目的が機能改善そのものではなく、「その人らしい活動への参加」を支援する手段として位置付けられていたことである。

作業療法では、対象者が意味のある活動に参加し、役割や生きがいを持ちながら生活できることを重視する。今回紹介された競技用車いすやスポーツ義足、電動車いすサッカーなどの支援技術は、単に移動や運動を可能にするだけでなく、新たな活動や社会とのつながりを生み出していると感じた。

また、クロストークで議論された機器の高額化や導入機会の不足は、地域で福祉用具支援に携わる立場としても重要な課題であると感じた。必要な人が適切な支援を活用できる環境を整え、その人らしい活動や社会参加につなげていくことも、作業療法士として積極的に取り組む必要があると感じた。

5. おわりに

本セミナーを通じて、スポーツ分野におけるリハビリテーション工学の取り組みが、競技力向上だけでなく生活支援や社会参加の促進にもつながっていることを学んだ。特に、スポーツを通じて培われた技術や知見が地域生活へ還元され、多くの人々の活動を支えている点が印象的であった。

2026 年のアジアパラ競技大会を契機として、支援技術への関心がさらに高まり、スポーツとリハビリテーション工学の連携が一層発展することを期待したい。